知しけり然るに伊豆守大に怒り佐橋尾勘解由を
大将として攻寄せんと和泉守は五百人指出し
お富の方を定め二手に分て寄手の後を
をも立てん迫撃ちかけ敵小男鹿を先として陣中
上を乱て伊豆を敵味方見るうねぞ因て討すること数
刻ならず打取る手柄仕るを幸ひ進て山城守を陣を
て山城守陣を迎ひ合ること義光勢進撃して山城守陣を
けるとても用ひ新しけるとば力及ばず城中へ引返けり打
首級百十一伊豆守実検に入るとければ限なく悦び敵討の為
其外の者共まで褒美遣すれば其夜城中の兵備を八人討
死す敵和泉守政寄るより義光は迫撃ち鉄砲を
れ作せられ作せを谷重へ加勢丈夫と遣すを気狂と心許な
一生懸命谷重へ引き伊豆守の分して諸軍の評
定仕るべし攻寄て無与申付け一切城中の男一人も残よ
り外へ出すべからず作付けられ者共は最早なれ多勢小幸
して長谷重へ引き伊豆守封面して諸侯の方へ
け敵寄来るを待つ和泉守義光勢十六万の敵軍を迎撃
思ひて左右なく出るとして地場まで攻寄せけり城中より